

産業建設委員協議会記録

開 会 年 月 日	令和 5 年 6 月 5 日
開 会 時 刻	午前11時08分
閉 会 時 刻	午前11時38分
出 席 委 員 名	◎野崎隆太 ○野口佳子 三野泰嗣 井村貴志
	上村和生 北村 勝 吉井詩子 宿 典泰
	品川幸久 議長
欠 席 委 員 名	なし
署 名 者	—
担 当 書 記	森田晃司
協 議 案 件	1 三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について《報告案件》
	2 令和 5 年 6 月 2 日の大雨による被害状況について
説 明 員	都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事、上下水道部長、
	上下水道部次長、上下水道総務課長、料金課長、危機管理部長、
	その他関係参与

協議経過

野崎委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り、「三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について」を協議した。

その後、宿委員から「令和5年6月2日の大雨による被害について」の質疑があり、市長部局からの答弁の後、聞き置くこととし、協議会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午前11時08分

◎野崎隆太委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

本日御協議願います案件は、報告案件として「三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について」であります。

議事の進め方につきましては、委員長に一任を願いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎野崎隆太委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

【三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について《報告案件》】

◎野崎隆太委員長

それでは報告案件の「三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について」当局から報告をお願いします。

上下水道部長。

●成川上下水道部長

本日は大変御多用のところ、産業建設委員協議会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の案件は、ただいま委員長から御案内がありましたとおり、「三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組について」の報告案件1件でございます。

詳細につきましては、担当部署より御説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

◎野崎隆太委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

それでは、三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組につきまして、御説明いたし

ます。資料１－１を御覧ください。

始めに１の「プランの目的及び経緯」でございます。平成30年12月、水道法の改正により、水道事業経営の持続性を高める方策として広域連携の推進が求められ、県はその推進役となりました。

さらに平成31年１月に国から県に対しての通知で水道広域化推進プランを策定するよう要請があったため、三重県が令和５年３月に策定し、公表しました。本協議会への御報告につきましては、国の通知に基づき県から、市町の議会で説明するよう要請があったものでございます。

次に、２の「プランの概要」でございます。

計画に記載されている主なものについて御説明します。

始めに（１）の計画期間でございますが、令和５年度から14年度までの10年間です。

次に、（２）の現状、将来見通し及び課題から（４）の広域化に係る推進方針等まで、資料１－２で御説明いたします。

恐れ入りますが、資料１－２、７ページを御覧ください。

こちらの７ページから19ページにかけまして、県内水道事業者の現状と将来見通しを整理し、次の20ページに課題のほうを記載しています。

次に、21ページを御覧ください。

広域化の類型について、管理の一体化やシステムの共同化、施設の共同設置など広域化の類型について記載しております。

次に、22ページから29ページにかけまして、今後の広域化に係る推進方針等について、推進方針や方向性、協議体制、当面の取組などについて記載しております。

恐れ入りますが、資料１－１にお戻りください。

最後に３の「市の方針及び取組」についてでございますが、本プランの取組を現在作業中の伊勢市水道事業ビジョンの見直しの中で反映させるとともに、県と市町を構成員とする三重県水道事業基盤強化協議会において検討・協議を行っていきたいと考えております。

以上で、三重県水道広域化推進プランに基づく市の取組の報告とさせていただきます。

◎野崎隆太委員長

本件は報告案件ではありますが、特に御発言がありましたらお願いします。

宿委員。

○宿典泰委員

少し質問させていただきたいと思うんですけども、国が三重県に対して策定をしろということで、広域化のプランの推進ということで策定をしたと、伊勢市としては、何かグループ分けもされておるので、当然、管理の状況やら、一番大事な水道料金の違いとかいろいろあるのをどのようにやっていくのかなということになると思うんですけども、今のところ伊勢市の態度としてどのような形でこれ進んでいくのか。そのあたりは、どういうことなんでしょう。

◎野崎隆太委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

現在、こちらのプランのほうでは、事業統合という、この水道料金を合わせるとかそういうところまでは考えておりません。その中で、まず水道の基盤を強化するという中で、広域連携が一つの方策でございますけども、市としましては、今回御報告させていただきましたとおり、営業業務の共同化や水道メーターの共同購入など、こちらのほうで協議・検討させていただきまして、少しでも経費の削減、あと事務の効率化にまずは取りかかってまいりたいと考えております。以上でございます。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

私はもっと現実的な話としては、水道料金が一番大事なところになってくるのかなと、というのは、いろんな経費の削減やら管理を統合していこうというときに、これこれこうということで広域的にはかかりますよと、それが全部削減という方向であればね、大いに結構な話だと思うんですけど、そういうことにはならないんじゃないかなと。水道料金を払うその人口も減少しておって、有収率もどうかというような話とか、いろいろ出てきてそれを地域の広域的に考えていこうということになると、当然最終的にはやはり水道料金をこれぐらい頂かんと無理やなということになる、その前提の連携なんかなと、こんなことを思っただけなんですけどね。これを見て水道料金というのはまだ統合は考えていないってもう当然そうでしょうし、そのあたりはあまり最終的にはそういう水道料金の統合ということになってくるのかなとは思っただけですけども、そのあたりをもう一度お答え願えませんか。

◎野崎隆太委員長
上下水道部長。

●成川上下水道部長

今、委員が御指摘いただきましたとおり、これからの人口減少等々で水道料金の減少が見込まれていく中で、収入の増という部分と、経費の削減、支出の減というところ、両方があるわけでございますけども、今回のこのプランに基づいて市が取り組んでいこうというのは経費の削減の部分でございます。水道料金の料金体系とは当然のことですけど、各市町で料金体系は皆違うわけでありまして、今から取りかかる場所として、その料金を統一していこうというようなところまでは、ちょっと今のこのプランでは踏み込んでちょっと想定はしていないところでありまして、今回、三重県や周辺市町と業務の共同化とか施設の共同設置管理等々で削減の効果が見込まれるということであれば、そういったことを取り組んでいって経費の削減につなげていきたいと考えております。

また、収入の安定化の部分につきましては、水道事業ビジョンの見直しを今進めており

ますので、今後の将来予測というところをきちんと整理もして御説明を改めてさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

具体的に聞きますけれども、このワーキンググループっていうことになると、伊勢市と鳥羽市と志摩市という3市になってくるのかなということで書いてありますけれども、今、料金体系はどういうどのようになっているんですか。

◎野崎隆太委員長
料金課長。

●山口料金課長

すみません、ワーキンググループのメンバーとしましては伊勢・鳥羽・志摩となっておりますが、今市としましての料金体系については隣接する2町のほうと、勉強会、検討のほうを進めておるという状況でございます。以上です。

◎野崎隆太委員長
その2町がどこかって聞いておと思うんです。
料金課長。

●山口料金課長

市と隣接するということで、玉城町と明和町でございます。以上です。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

よう分らんけど。

23ページに各地域のワーキンググループのメンバーということで書かれておったので、私は伊勢市と鳥羽市と志摩市でそういうワーキンググループの関係の何か基準になるようなことを議論していくのかなということで、当然それは水道料金にも関わることなので、伊勢市と鳥羽市と志摩市の水道料金の料金体系を、それをちょっと教えてほしいということを申し上げた。

◎野崎隆太委員長
上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

鳥羽市、志摩市の料金につきましては、伊勢市より高い水準となっております。

それから、こちらもワーキンググループのメンバーとして、一旦鳥羽市、志摩市というふうには記載はされておりますけども、今年度から具体的に協議に入るに当たりまして、現在、県のほうからもアンケートが来ておりまして、どのようなグループで話していこうとか、各市町アンケートを今現在取っておりまして、その結果に基づきましてワーキンググループっていうのも変わってくるっていうふうにも聞いておりますので、そのように御理解のほうをお願いしたいと思います。

◎野崎隆太委員長

宿委員。

○宿典泰委員

そうするとこれを見せていただいて、各地域のワーキンググループメンバーって書いてありますけど、これは変わり得るような状況だということで、読み取るわけですか。

◎野崎隆太委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

県のほうからは検討状況によりまして、ワーキンググループの入替えとかそういうものは行っていくというふうに聞いております。以上です。

◎野崎隆太委員長

宿委員。

○宿典泰委員

再度、御質問しますけれども、鳥羽市、志摩市はこのワーキンググループでいくと、今のところ入っていないけれども水道料金は高いと。玉城と明和町はどのような状況なんでしょう。伊勢市が幾らに対して幾らっていうことをちょっと教えてほしいですけど。パーセントでもよろしいですけどね。伊勢を100としたときに幾らっていう。

◎野崎隆太委員長

暫時休憩します。

休憩 午前11時21分

再開 午前11時22分

◎野崎隆太委員長

休憩前に引き続き会議を続けます。

料金課長。

●山口料金課長

すみません、伊勢市、玉城町、明和町の水道料金でございますが、平成29年度現在水道ビジョンをつくったときの数字にはなりますが、1か月20立米としまして、伊勢市が2,623円、玉城町が2,500円、明和町が2,260円というふうになっております。以上でございます。

◎野崎隆太委員長

宿委員。

○宿典泰委員

安いとこと今協議をしておるということなんですね。

僕は水道料金というのは、それはもう安いにこしたことはない。でも維持管理やら、それなりの事務負担をいろいろと広域的にやっっていこうとなると、それを割り引いてくと正直、これぐらいの料金を頂かんと運営できないよっていう、最終的な話だと私は認識しとるわけです。だから、今広域の関係でいろいろとワーキンググループの中で議論をしてもらうのも結構な話だと思うんやけれども、最終的には相手の市町がどういう料金体系で、どのような運営をして、老朽化した管が延長がどれくらいやというようなことまで細かく調べてくると思うんさな。そのときに、最終的には伊勢市が、そのワーキンググループのメンバーと議論をしとる中で、そのためだけに上がっていくんではないかなという心配があって一番最初に御質問申し上げたんです。今言うように、何かここで書いてある営業業務の共同化とか、水道メーターの共同購入とか、水質検査の共同委託、施設の共同設置、このあたりはちょっと課題もあると思うんやけれど、その上の3つってというのは、広域化の中の推進で、国が県に言って、県がこれをやっていきましょうねというような話ではなくて、もう今目の前で現実に突きつけられとるような状況だと思うわけですね。最終的に国は、もう少し市町を絞り込んで、広域で運営していけるようにということは簡単に思っと思うんやけども、なかなかそのあたりというのは難しいんじゃないかなという私は気がしておるんです。ただこのプランは10年先には広域化してくぞということとするとね、伊勢市のほうの態度はどういうことなのかなということをお聞きしたんです。もう一度そのあたりのこの推進プランにかける考え方やら、皆さんの位置ってというのはどのあたりなのかちょっとお聞きをしたいと思うんです。

◎野崎隆太委員長

上下水道総務課長。

●中山上下水道総務課長

まず、委員おっしゃっていただいております県内の5つ、将来的には1水道になっていくんかっていう話の中で、県のほうから聞いておりますのは、現時点ではまだまだ消極的でございます。

その中で、県内の事業体、ほぼこちらの課題にも挙がっておりますけども、我々と一緒のような課題、給水収益の減少、経費の増大ってということがございます。これまでも市町単独で経費削減の努力っていうものは、それぞれしとるところなんですけども、国の法律改正等の趣旨もございまして、行革という意味の中で広域的な今度連携でスケールメリットを働かせて少しでも経費を下げていこう、水道料金が今後少なくなっていく中で、まずそれぞれの事業体が単独だけでは限界も来ておりますので、こういった取組を少しでもやって、事業経営の継続、持続というものに取り組んでいかないかんという中で、プランができております。

今後我々としまして、こちらせっきく協議の場がございますので、積極的にこういったところで、経費の削減や事業の効率化を目指して、鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、御理解のほどよろしくお願いします。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。県のほうは消極的な話だということもお聞きをしたので、あと10年間の推進計画っていうんですかね、これについては、我々産業建設委員会のほうへも逐次やはり報告をいただきたい。今どういう状況で、どうなったというようなことも含めてね、報告をいただきたいということを申し添えて終わります。

◎野崎隆太委員長
答弁はよろしいですか。

○宿典泰委員
はい。

◎野崎隆太委員長
他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎野崎隆太委員長
御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【令和5年6月2日の大雨による被害状況について】

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

今回の案件というか報告にはありませんけれども、6月2日から大雨警報が出て、被害

が伊勢市の中でも相当出ているというようなことで、危機管理課からもGメールを頂いて
してあるんですけど、状況が細かく分かるわけではないので、少し報告をお願いしたいと
思います。

まだ調査不足みたいなこと書いてあるんですけど、結果的には、6月3日現在というこ
とでしてありますから、もう少し報告が要るのかなと思いますけれども、現状報告をして
いただけませんか。

◎野崎隆太委員長

所管がまたがるところもあるんですけども、私からも私どもの所管が重なる部分ですので、
ぜひとも御報告をいただきたいと思いますが、皆さんよろしいですか。議長もよろしい
ですか。

それでは、よろしくお願いいたします。

危機管理部長。

●日置危機管理部長

この6月2日大変な雨が降りまして、1日に320ミリぐらいの雨が降ったという状況で
ございます。

そして、刻々とした状況の中で商店街が水についてるとかいろんな情報を基にそれぞれ
被害認定調査であるとか、また、災害ごみの受入れ、そして消毒液の配布等々を行ってま
いりました。

その中で、被害認定調査につきまして、速報値ということで御報告申し上げました。床
上4件、そして、これを含む住家被害は78件というところでございます。こちらのほうに
つきましては、現在も調査の依頼等々が入っておりますので、こちらのほう、また今週中
ぐらいはずっとこう入ってくるかなという思いもございます。ですので、他の道路であつ
たり、河川であつたり、また農地であつたりそういうような被害も含めて、今週中ぐらい
調査をさせていただきまして、週明けにまた書面で報告をさせていただきたいと、そのよ
うに考えております。以上でございます。

◎野崎隆太委員長

宿委員。

○宿典泰委員

台風19号で伊勢市内相当被害があったというようなことがありました。そのときの状況
からすると、今回は少しよかったのかなと思うんですけど、そこら辺の比較したときに
どのような状況なんですか。

◎野崎隆太委員長

危機管理部長。

●日置危機管理部長

台風19号のときは475ミリということで、今回よりも100ミリ以上降雨量が多かったというところもございます。ですが、今回もやはり氾濫危険水位っていうのを超えたりとか非常に危険な状態でありましたので、こちらのほう、前回もそうなんですけれども、やはり早めの対応というふうなことを心がけながら今後もやっていきたいとそうように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

1点は浸水対策とかいろいろと進めていただいていますけれど、その浸水対策の遅れがあつて、ここをこうしていけばよかったねっていうようなところがあるんならそれはまちづくりとして、河川の対策として、産建で本来はすごく議論していかないかんとこなんですよね。ここに書いてあるような、何々町って言ったら何々町のどこの部分やというのは、我々も分からないので、その水はどこから来とんのやという話とかね。そこら辺がきちっと、我々の中でも議論ができるような、資料を提示をしてもらわないと、予算・決算の中で、河川排水やら、側溝問題もそうですけど、道路をもう少しこの辺りをきちっとやっておかないかんとというような課題を解決するために我々議会側もあるわけなんで、そういう細かな資料をきちっとつくっていただきながらやっていただかんと、件数ばかり聞いてもね、前に進まん話だと思ふんですよ。そういうこともあつてお聞きしとるので、何々町のどこの河川のどういう状況があつて、やっぱりここが集中して水が流れるので雨水を出せないとかいうようなこととか、ポンプ場が要るよねっていうような話でしょ。だからそういうことをきちっと議論をしていく場にしていけないと困ると思ふんですよ。そういう意味でやはり危機管理のほうもね、考えてもらいたいと思ふし、そういった報告あれば、当然都市整備のほうもそれを受けて、予算にはないけれども、これは被害として、きちっと本年度でやってかないかんとというようなことになると思ふので、そのあたりの態度をお聞きをしとるんです。もう一度お願いできますか。

◎野崎隆太委員長
都市整備部長。

●荒木都市整備部長

今回の雨、先ほど平成29年の被害のこともございました。雨の降り方は様々あつて、先ほど平成29年の雨量が475ミリぐらいだったという話がありましたけれども、今回小俣の観測地点でいいますと、323ミリっていう情報がございます。ただ、今回は五十鈴川流域といえますか、山のほうからの水が多かったというところで、1日の量だけではちょっと被害の状況が分かりにくいようなところもございます。先ほど、浸水対策の遅れというような話もございましたけども、この平成29年の災害を受けて、協議会をつくりまして、国・県・市とそれぞれ事業を進めておりまして、ポンプとかほかの河川改修についても時間はかかると思いますが、それが全てできておるというわけではございません。

ただ、やっぱり部分的には改善もしておるところございまして昨日も現地の声も聞く中で、感覚的には以前よりはよくなっておるような話も聞いております。それはあくまで感覚的なことですが、まだまだ課題もありますので、これは現状を把握して対策を講じていきたいと。今回の特徴としましては山からの水、そして台風の進路としては、ちょっと平成29年のような最初から皆さんが危機感を持って準備しておるような、そんな状況ではなかったかと思います。ただ、現実的には線状降水帯が発生して、急激に雨が降ったということもございます。これ、ちょっと私の所感になってしまうかも知れませんが、川のほうはまだ少し余裕がある中で、市内いろんなところが冠水したというところを考えますと、住宅地にある側溝であったり、排水路であったりとか、そこら辺が急激な雨に対する能力が不足しておった。あるいは、そこの飲み口に草木があるいは土砂が詰まって、それが機能しなかったというようなこと、いろいろ原因が推測されます。それに対してはどうするかというと、地域の方の声でもあるんですけども、葉っぱで飲み口が塞がっていると。それは以前やったらもう少し準備しとって取ったはずなんですけど、今回はちょっとそれが遅れたもんで詰まったみたいな話であったりとか、いろいろ話聞いてますので、そこら辺は全部行政ができるところではないところもありますので、啓発の仕方であったり、情報の流し方であったりというところもあるかな。

あとは抜本的な解決としてはポンプであったりとか河川改修であったりと、これは継続して、国や県にもお願いしながら市も併せて下水も含めてやってるところでございしますが、地域の排水能力の向上、そういったことも今回の雨の結果も見てどういうふうなことができるか、あるいは国への要望もできるかというようなことも取組も今後考えていきたいと、そのように思っております。以上です。

◎野崎隆太委員長
宿委員。

○宿典泰委員

どうもありがとうございました。

職員の皆さんが本当に徹夜して頑張っていたいておる状況というのを私らも耳にするので、それはもうそれとしても、やはりこの被害があったところの箇所が何で起こったんやというようなことの研究をやはりぜひ進めていただいて、平成29年の19号台風のような状況ではないのに水が相当あふれとるところがあったんですよ。それは何なんやというようなことをやはりきちっと研究をしていただきたいなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎野崎隆太委員長

この件閉じさせていただいてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎野崎隆太委員長

以上で御協議を願います案件は終わりました。これをもちまして産業建設委員協議会を閉会をいたします。

閉会 午前11時38分